

保育理念		安全・安心な保育環境のもと「たくましく生きる力・学びに向かう力」を育む	
保育方針		「子どもの主体性が育つ保育」	
保育目標		『安全・安心』『健康な心と体』『豊かな感性』『のびのびと自己を表現する』『伝え合う』『ともに育ち合う』	
重点目標		ワンフロアを活かした保育環境(乳児)子どもと共に創る遊び(幼児)～チームでの語り合いを通して～	
項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価・課題
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	・乳児クラスは月2回以上、子どもが保育者との関わりの中で自己肯定感をどのように構築しているかについて職員間で語り合う。その中の一部を文章や写真で保護者に伝える。 ・幼児クラスは読み取りを行い、『保育者との関わり』や『子ども同士の関わり』の中での子どもの思いについて考える。また、保育者の働きかけが子どもの自己肯定感にどうつながっているかを語り合う。	・乳児クラスは目標の回数を達成できた。 ・幼児クラスは、幼児会議において行った。子どもが自分の思いを表出する姿が増え、自己肯定感の高まりを感じる。今後子どものエピソードを含めた語り合いの場をもつ。 ・日中勤務の保育者間だけでなく、用務や朝夕の職員と共に子どもの関わり方について考え意見し合う場をもっていきたい。
	資質・能力を育む保育の推進	・月に1回以上環境マップを作って環境の再構築を行う。 ・資質、能力の育ちを意識した遊びを子どもと共に創っていく。 ・月に1回以上遊びや保育環境の話し合いを行い、教材研究を深めて保育の質の向上を図っていく。	・目標通り行い、より良い環境の再構築に努めた。 ・子どもの考えや対話を大切にすることで、子どもの資質・能力の育ちを捉えられる場面が多くなった。 ・保育環境の話し合いは目標以上に行った。各遊びの担当を決めたことが保育者の教材研究に繋がった。
	ちがいを認め合える仲間づくり	・人権研修を年1回以上行い学び合う。また、人権に関する事象を捉えて、その都度職員間で話し合う機会をつくる。 ・伝統行事の捉え方を再確認し人権意識を高めていく。	・実例をあげて皆で語り合ったことで、ちがいを認め合える仲間づくりの育成のための保育者の関わり方を共通理解することができた。所外における人権研修にも自主的に参加する職員が多かった。 ・伝統行事の捉え方を、若手の職員に伝えていく場となった。
	健やかな体の育成	・乳児クラスは室内外の環境や遊具を工夫しながら活用していく。 ・幼児クラスはリズム遊びの年間計画を立てて取り組んでいく。 ・「ほけんの話」などの保健指導を季節や発達段階に応じて随時行う。	・乳児クラスは目標通り行った。今後は戸外環境の充実や工夫を行っていききたい。 ・幼児クラスは、リズム遊びを意識して保育の中で取り入れてきたが、計画通りではなかった。健やかな体作りについてのねらいをより具体的に、成果が明確になるよう取り組んでいきたい。 ・目標通り行った。子どもの習慣となるように、保育の中でこまめに知らせていきたい。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・講師を招いての研修会を年1回行う。 ・乳児は月1回以上、環境マップを使って環境構成について話し合い、ワンフロアの環境の再構築につなげる。 ・幼児は写真や動画を使った子どもの読み取りを月3回以上行い、子どもの姿を共有したり、関わり方を学び合ったりして職員の資質の向上に繋げていく。	・研修会を年1回行い、多くの職員の学びの場となった。 ・目標通り行えた。話し合ったことをその都度環境マップにしたことで共通理解しやすく、次年度に繋がるものとなった。 ・目標通り行ったが共有する場が少なかった。来年度は、子どもの姿の読み取りに特化した話し合いの場をもち、職員全体で子どもの育ちや発達の理解を深めたい。
	チーム保育の推進	・保育ウェブや写真を使って保育の経過を可視化し、子どもの育ちや遊びの中での学びの共通理解を図る。 ・チームの一員として会議や子どもの姿の読み取りの場で一人一人が意見を出し合い「子どもが夢中になって遊ぶ環境づくり」に繋がる保育を進めていく。	・乳児・幼児会議の中で遊びの共通理解を図りながら保育を進めることができた。保育ウェブの活用方法については検討が必要である。 ・皆がそれぞれの意見を尊重し合う雰囲気があった。話し合いの時間の捻出や内容の精査が必要である。 ・乳児クラスでは広い保育室の中で、子どもたち自身が好きな遊びを落ち着いてできるように、子どもの移動や職員の配置などの連携を図ることができた。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	・icucoでの発信方法を職員が習得し、週に1回以上のこどもだより(幼児)、月に1～2度の個人写真付きの連絡ノートで子どもの様子を伝えることに努める。 ・ホームページで子どもの様子を月に2回、食育についての記事を月に1回発信することで、保育で大切にしていることについて保護者、地域の方等に知らせる。	・職員の不慣れや、システムの不具合等があったが保護者の理解や協力の元進めていく事ができている。時間をかけてできるだけ多くの職員が配信やノートの作成に携わった事で方法を習得でき、定期的に様子を伝えた。 ・ホームページの発信は目標通り行った。食育については調理職員が積極的に行った。
	小学校との接続	・近隣の小学校へ行き、学校生活を知る機会をもつ。 ・公開保育や行事に参加してもらい機会やこどもだよりの配布など保育所の様子や遊びの姿を発信する。	・伊丹小学校の理解の元、子どもや保育者が小学校を知る機会を持てた。 ・目標通り行えた。こどもだよりの配布は定期的に行っていきたい。
	地域交流 子育て支援	・園外散歩や園庭開放を通じて、地域交流を図る。	・園庭開放は、周知されつつあるが利用数は少ないので、引き続き情報発信していく。 ・地域の方に『畑の先生』として畑作りや野菜の育て方を、『生き物の先生』として生態や育て方についてを教えていただく機会をもった。地域とのつながりを継続していく。
備考		・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園(保育所、こども園、児童発達支援センター)で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。	

次年度に向けた重点的な改善点
今後取り組むべき重点的な課題

・子どもの資質・能力を育むための豊かな保育環境の構成
・園内研修・研究の充実(子どもの姿の読み取り・保育計画の共有・教材研究)
・業務改善(残業を減らすための仕組みづくり)